

くまびょう 2009 139号 NEWS

くまびょう
NEWS

2009年
1月1日



[発行所]

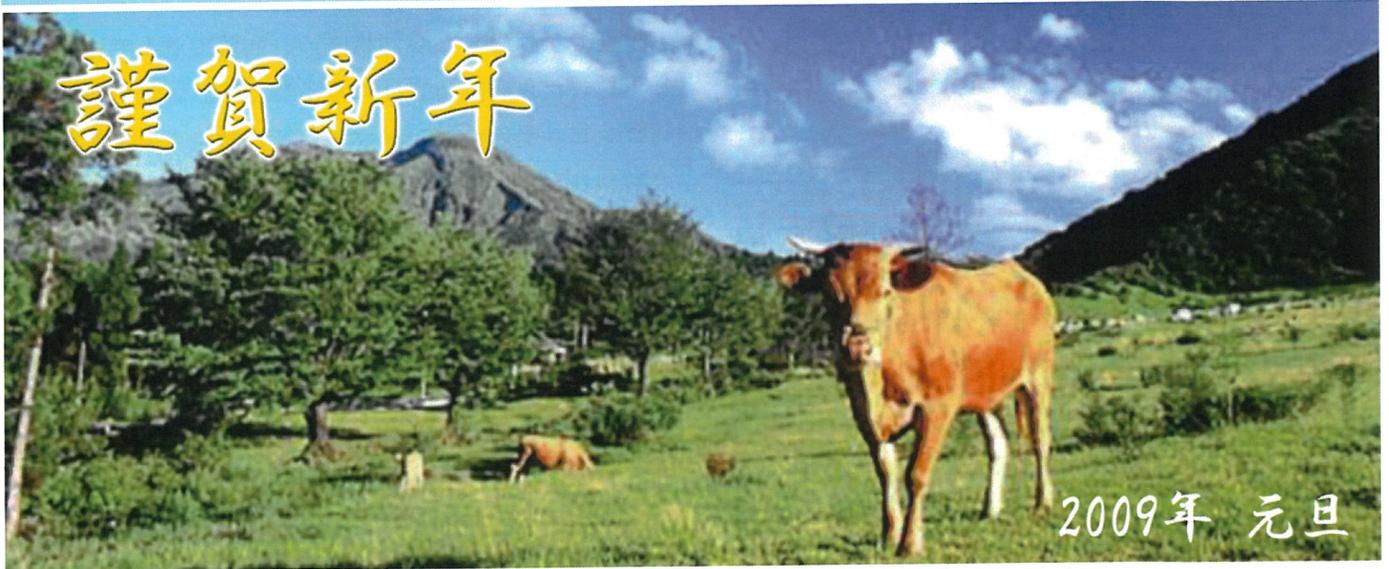
国立病院機構熊本医療センター

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501(代)

FAX (096) 325-2519



新年の御挨拶

国立病院機構熊本医療センター

院長 池井 聡

明けましておめでとうございます。

旧年中は多方面にわたり御指導、御支援を賜りまして誠にありがとうございました。職員一同、心より御礼を申し上げます。

本年はいよいよ新病院の竣工・移転の年です。本年9月末には新病院での診療を開始する予定です。これにともないCT、リニアック等の大型医療機器をはじめ多くの医療機器を更新し、診療機能も大幅に向上致します。もちろん医療の根幹をなすのは人ですので、医療知識・技術の向上とともに礼節ある態度で診療にあたる人材の確保と教育に努めます。ソフト、ハードの両面で医療機能を向上させ、先生方のご指導のもと地域と密着した医療を心がける所存です。

本年もよろしく御指導、御支援賜りますようお願い申し上げます。

本年が良い1年になりますよう祈念申し上げます。

2009年 元旦



国立病院機構熊本医療センターは

- 1、最新の知識と医療技術をもって良質で安全な医療を提供します
- 2、人権を尊重し、愛と礼節のある医療の実践を目指します
- 3、教育・研修・研究を推進し、医学・医療の発展に寄与します
- 4、国際医療協力を通して世界人類の健康に貢献します
- 5、健全経営に努め、医療環境の向上を図ります



トーマスとの日々

天野整形外科皮ふ科

院長 天野 敏夫

小生は田崎市場の近くで整形外科を開業しております天野と申します。(当院は妻が皮ふ科をしまして、世間では皮ふ科の方が名が通っており、小生はその一隅に寄生しております)

趣味は「おもちゃ」特にミニカーや機関車トーマスシリーズの収集に精魂を傾けております。言い訳にはなりますが、これは小生の専門分野が小児整形であり、実はこの仕事と趣味には重大な関わりがあるのです。レールを組んでトーマスシリーズ等を走らせる時などは全く童心に帰ってしまいます。あまり童心に帰りすぎて周囲から脳の精査を勧められている所です。

先日は、なんとかザラスで床に這いつくばってミニカーを探していました所、隣の幼児が「センセイ」と言うので横を向きましたら、3才の患者さんが座っ

ていました。そこで共通の趣味の事を暫時論じあい、今回は診察室での再会を約束してバイバイしました。

子供の世界は楽しく純粋であります。小生も開業する時に駐車場の一面に遊園地の建築を企画しました所、周囲から「遊具等で子供がケガをしたらみへんなお宅の責任になりますよ。」と言われて断念した事があります。

最近、デパートでケガをしたらデパートの、幼稚園でケガをしたら幼稚園の、病院で遊んでいてケガをしたら病院の責任になる様です。病院も最近コンビニ受診やクレーマー対策、救急車のタクシー替わりなどに加えて経営効率化、医療費の抑制など様々な困った事態が生じています。願わくば治療する人もされる人も相互信頼の下に毎日気分よく仕事、受診ができますようにと思っています。

今回熊本医療センターの新築で、病院一市民一診療所の連携がまた一段とレベルアップしますようにと、外野席よりエールを送ります。



第26回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会開催予定のご案内

標記連絡会につきましては下記の日程を予定しています。正式には連絡協議会の決定を待ってご案内申し上げます。

日時： 2009年2月28日(土) 18時30分～20時30分(予定)

場所： くまもと県民交流館パレア

〒860-8554 熊本市手取本町8-9テトリア熊本ビル TEL 096-355-4300(代)

- 内容： 1. 紹介症例の呈示
2. 総合討論
3. 特別講演(交渉中)

〈連絡先〉国立病院機構熊本医療センター管理課(西田、牧野)

〒860-0008 熊本市二の丸1-5 電話 096-353-6501 内線390

救命救急センターが人事院総裁賞を受賞しました

院長 池井 聰

この度、救命救急センターが平成20年度の人事院総裁賞受賞し、その授与式に出席しました。人事院総裁賞は、多年にわたる不断の努力や国民生活の向上への顕著な功績等により、公務の信頼を高めることに寄与したと認められる職員（一般職の国家公務員）又は職域を顕彰するため昭和63年に創設され、顕彰は毎年1回行われ今回が21回目になります。毎回、個人、職域あわせて5件ほど選ばれていますが、今回は個人3名（海上保安官、造幣局作業員、国立病院機構福岡病院；西間院長）と2職域（国土交通省・河川事務所、当院の救命救急センター）が顕彰されました。数多くの省庁・行政法人の中から国立病院機構から2件選ばれたこととなります。

受賞理由は24時間365日体制で救急患者の受け入れを行うことにより、救急医療の確保に貢献するとともに、救急従事者の資質の向上にも貢献したことが認められたものです。これは患者様をご紹介頂いている先生方、また転院患者様を受け入れて頂いている先生方、外来フォローをして頂いている先生方のお力添えによるものであり、この場を借りまして感謝申し上げます。

授与式は12月10日11時より明治記念館・千歳の間にて行われました。受賞者所属府省代表者の臨席のもと、人事院総裁より賞が授与されました。当院からは高橋救急部長と井坂事務部長が同伴しました。授与式後に人事院総裁を囲んで記念撮影がありました。その後、人事院総裁をはじめ人事院幹部や選考委員の方々との



昼食会があり、選考委員であるフジテレビの箕輪解説委員、読売新聞社の橋本五郎編集委員等と懇談しました。午後2時に皇居に赴き、2時30分より連翠の間にて天皇皇后両陛下に御接見を賜りました。人事院事務局長が受賞者の1人1人の前まで両陛下を案内して、所属・指名と受賞理由を紹介されました。その後、両陛下は二手にわかれて1人に5分間ほど、仕事の内容などをご質問されました。私は左端でしたので、皇后陛下には1番目に、天皇陛下には5番目に御接見を賜りました。受賞理由の内容をすべてご存じて、「病床が満床の時はどうされますか」、「職員の健康は大丈夫ですか」「頑張ってくれて有り難う」などの有り難い言葉を頂きました。最後に全員に、「今後も国民のために尽くされることを希望します」とのお言葉を賜りました。天皇陛下は御体調がすぐれないとの報道があり、御接見は中止になるのではないかと憶測もありましたが、陛下の強い希望でお出まし頂いたと聞き一段と感激しました。その後、厚生労働省に行き、事務次官等に挨拶しました。さらに国立病院機構本部に移動して、河村副理事長をはじめ幹部の方々に受賞の報告し、今回の受賞に対する表彰状を頂きました。

この賞を頂いたのを励みにさらに救急医療を含めた医療連携の推進に努める所存です。今後とも登録医の先生方のご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。





医長
吉里 公夫
脳神経外科一般
(特に脳血管障害、腫瘍)
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医



主任医長
大塚 忠弘
脳神経外科一般
(特に脳血管障害、外傷)
日本脳神経外科学会専門医



吉永 豊
脳神経外科一般
(特に脳血管障害、頭部外傷)
日本脳神経外科学会専門医

診療内容と特色

脳神経外科は平成6年に開設され、平成9年には日本脳神経外科学会専門医教育認定施設となり、研修指導を行っております。当院における救急患者の搬入件数が増加するにつれ、くも膜下出血や高血圧性脳内出血を主とする出血性の脳卒中患者および頭部外傷患者が治療の中心となりました。しかし、脳腫瘍、脊髄腫瘍患者についても積極的な外科治療を行います。

平成17年度からは日本脳卒中学会専門医認定教育施設に認定されましたので、脳卒中診療に更に力を注いでいきたいと思っております。特に、脳虚血性病変に対する頸部内頸動脈内膜剥離術(CEA)や頭蓋内外血管吻合術について症例を重ねております。最近では、重症くも膜下出血患者(grade IV、V)に対しても積極的に外科手術を試みており、成績の良い症例も増えてきました。

研究実績

- 脚立に伴う特異な頭部外傷に関する研究
- 頭蓋内血腫に及ぼす抗血小板/凝固薬の影響に関する研究
- 無症候性微小脳出血(microbleeds)に関する研究：国立病院機構政策医療ネットワーク循環器疾患共同研究(平成17-19年度、主任)、国立病院機構EBM推進のための大規模臨床研究(平成20-23年度、主任)

ご案内

頭部CTやMRI所見については、電話やメール(画像添付)などご遠慮なくご相談下さい。

診療実績

当科の入院患者数および手術件数は順調に伸びてきました(図1)。昨年度は頭部外傷(慢性硬膜下血腫を含む)と脳血管障害患者の合計で入院患者のほぼ9割近くを占めるようになり、緊急疾患に対する体制の強化が益々重要となってきました。年間手術件数は183件となり、脳動脈瘤クリッピング術(39件)など脳血管障害に関するものが主です。

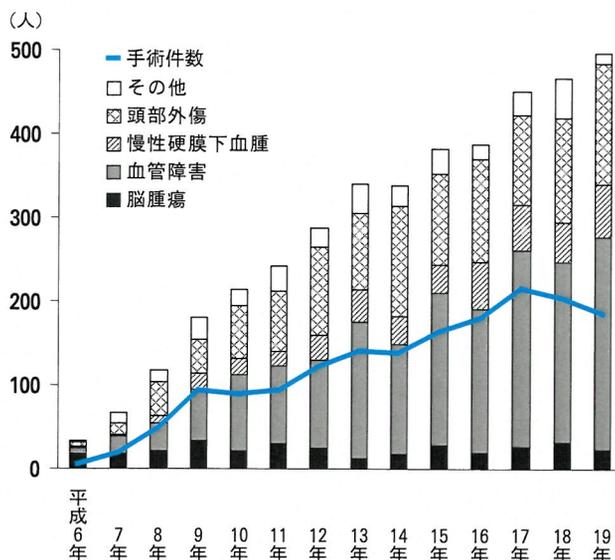


図1 入院患者数と手術件数

第14回 国立病院機構熊本医療センター医学学会開催のご案内

公開の医学学会です。多くの皆様のご参加をお待ち致します。

平成21年 1月18日 (日)

開会の辞

池井 聰 (国立病院機構熊本医療センター院長)

8:50~9:00

一般演題Ⅰ「外科系1」

座長：庄嶋 健 (庄嶋医院院長)

9:00~10:00

井上範子 (国立病院機構熊本医療センター西2病棟師長)

I-1 放線菌感染が発症原因と推察された腸間膜脂肪織炎の一例

外科

城臺孝之、多森靖洋、美馬浩介、藏重淳二、保坂征司、松本克孝、本田志延、
大堂雅晴、宮成信友、片渕 茂、芳賀克夫、池井 聰

病理

村山寿彦

I-2 結腸間膜に発生した内ヘルニアの2例

外科

藏重淳二、宮成信友、美馬浩介、松本克孝、保坂征司、多森靖洋、本田志延、
大堂雅晴、芳賀克夫、片渕 茂、池井 聰

I-3 白血病急性期患者の腹腔鏡下手術における全身麻酔の経験

麻酔科

遠藤慎也、宮崎直樹、小寺厚志、上妻精二、瀧賢一郎、江崎公明

I-4 頭蓋頸椎移行部の病変によるクモ膜下出血3症例の検討

脳神経外科

高島大輝、吉永 豊、吉里公夫、大塚忠弘

I-5 当院における卵巣未熟奇形腫3例の検討

産婦人科

山田 周、伊藤史子、吉里直子、永井隆司、西村 弘、三森寛幸

I-6 腸閉塞を契機に見つけた膀胱破裂の1例

泌尿器科

仲西寿朗、山口隆大、瀬下博志、陣内良映、土岐直隆、菊川浩明

一般演題Ⅱ「外科系2」

座長：宮成信友 (国立病院機構熊本医療センター外科医長)

10:00~11:10

谷村優子 (国立病院機構熊本医療センター西3病棟師長)

II-1 DeBakey I型急性大動脈解離に対する術式による成績と予後の検討

心臓血管外科

片山幸広、毛井純一、岡本 実

II-2 当院における大腿骨近位部骨折骨接合症例の検討

整形外科

田原 隼、前田 智、野村一俊、橋本伸朗、福元哲也、中馬東彦

II-3 下口唇日光角化症に対し外科的切除と舌弁を用いて再建した一例

形成外科

池山有子 東野哲志 大島秀男

皮膚科

加口敦士

かつき皮膚科

嘉月 博

II-4 当科におけるベル麻痺症例の治療成績

耳鼻科

竹村考史、羽馬宏一、門脇嘉宣、緒方憲久

II-5 精神科病院に転院した大腿骨近位部骨折患者の予後調査

リハビリテーション科

西崎武文、永田光二郎、榮 彩人、西島卓生

医療福祉相談室

藤本順子

II-6 再発を繰り返した真菌性眼内炎の一例

眼科 青木浩則、浦野貴之
由富医院眼科 由富章子

II-7 外傷性副腎出血の7例

放射線科 赤池公孝、富高悦司、荒木裕至、浅尾千秋、吉松俊治

一般演題Ⅲ「看護・教育」

座長：加口 敦士（国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長）

11：10～12：10

田上美香子（国立病院機構熊本医療センター附属看護学校）

Ⅲ-1 精神障害・身体合併症患者の拘束解放観察時の判断要因

別5病棟 池田洋子、栗原 菜、西山三二子、城下 賢、池田としえ、堤 令子

Ⅲ-2 新人看護師のインシデントに至る背景的要因～危険予知体験型研修を通しての新人看護師の気づきより～

看護部副看護長研究グループ 北野幸代、平野智子、田口喜子、藤戸邦子、松本尚子、葦浦幸恵

Ⅲ-3 血管造影室における看護師の行動の根拠－ビデオ撮影による分析－

別1病棟 浜塚 彩、高山景子、中嶋真樹、井戸誉子、大野智和、城 雪子

Ⅲ-4 ICU入室時の家族の思いと看護の実態～患者家族看護マニュアルを導入して～

ICU 若林絵里、井龍美幸、椎葉賢心、西辻美佳子、徳永雄規

Ⅲ-5 看護学生の全実習終了時におけるリスク認知力の実態

看護学校 守嶋 絹、荒木美佐子、豊田恵美、竹下弘子、原野裕子、田上美香子、石原史絵、安浪小夜子

Ⅲ-6 病院職員において事務職員は何をなすべきか

事務部 堤内俊一

昼 食（12：10～13：00）

一般演題Ⅳ「内科系1」

座長：柏原 光介（国立病院機構熊本医療センター呼吸器科医長）

13：00～14：00

松本メグミ（国立病院機構熊本医療センター東1病棟師長）

IV-1 可溶性CD30と可溶性IL-2 受容体濃度に基づくATLの治療戦略

血液内科 武本重毅、河北敏郎、松井崇浩、井上佳子、榮 達智、原田奈穂子、長倉祥一、日高道弘、清川哲志、河野文夫

病理 村山寿彦

臨床検査科 永松直子、山田 彩、安田正代、松本恵美子

IV-2 止血のために血漿交換を要した血友病Aの一例

血液内科 松井崇浩、河北敏郎、井上佳子、榮 達智、宮中 敬、日高道弘、河野文夫

心臓血管外科 岡本 実

IV-3 関節リウマチの治療中に急性呼吸不全で発症した間質性肺炎の1例

呼吸器科 太良史郎、岡本知久、森山英士、柏原光介

IV-4 疼痛管理が困難だった舌咽神経痛の一例

神経内科 幸崎弥之助、高松孝太郎、田北智裕、俵 哲

IV-5 降圧薬のため高レニン血症を呈した原発性アルドステロン症

内分泌・代謝内科 肥後直倫、大迫貴子、西岡裕子、児玉章子、豊永哲至、東輝一朗

救命救急部 高橋 毅

IV-6 低カリウム血症と代謝性アシドーシスを契機に発見されたシェーグレン症候群の一例

腎臓内科 谷川広紀、富田正郎、宮中 敬、徳永琢也

一般演題V 「内科系2」

座長：木村圭志（七城木村クリニック院長）

14：00～15：00

有馬京子（国立病院機構熊本医療センター救命救急センター師長）

V-1 診断に苦慮した腸結核の1例

消化器科	原 慎太郎、片山貴文、中田成紀、尾上公浩、松山太一、前田和弘、杉 和洋
外科	大堂雅晴
呼吸器科	森山英士

V-2 当院における胃静脈瘤治療について

消化器科	中田成紀、佐藤有紀子、松山太一、尾上公浩、片山貴文、前田和弘、杉 和洋
放射線科	荒木裕至、吉松俊治

V-3 28秒間の心停止を来した心抑制型神経調節失神の1例

循環器科	塚本 歩、金澤尚徳、中田恵美、古賀英信、宮尾雄治、藤本和輝
------	-------------------------------

V-4 モバイル・テレメディシンによる病院前診断が有用であった不安定狭心症の1例

救命救急部	本田 幸、山田 周、櫻井聖大、北田真己、清水千華子、原田正公、橋本 聡、 児玉章子、高橋 毅
循環器科	金澤尚徳、中田恵実、古賀英信、宮尾雄治、藤本和輝

V-5 一過性好中球減少症の2例

小児科	楠本 優、坂田和也、緒方美佳、森永信吾、高木一孝
熊本労災病院小児科	板井義男
こどもクリニック友枝	友枝新一

V-6 シチコリンおよびアマンタジンの併用療法により遷延した意識障害の改善を認めた2症例

精神科	橋本 聡、肥後直倫、小山一静、山下建昭、渡辺健次郎
救急救命部	谷川広紀、清水千華子
呼吸器内科	岡本和久

一般演題VI 「コメディカル」

座長：青木 浩則（国立病院機構熊本医療センター眼科医長）

15：00～16：00

釋迦堂益子（国立病院機構熊本医療センター栄養管理室長）

VI-1 栄養管理室におけるリスクマネジメント

栄養管理室	村上智子、大山明子、倉本誠雄、釋迦堂益子
内分泌・代謝内科	東輝一朗

VI-2 当院における廃棄血削減の取り組み

臨床検査科	松本いつか、若松朋大、川崎達也、久田正直
-------	----------------------

VI-3 クリットラインモニタ(CLM)を用いた透析中の除水管理

臨床工学技士	川内 直、田代博崇、新木信裕、竹本勇介
--------	---------------------

VI-4 99mTc-GSAシンチグラフィにおけるSPECT画像処理の基礎的検討

ー減弱補正法とカットオフ周波数についてー

放射線科	山下一也、有迫哲朗、市川和幸、西本博美
------	---------------------

VI-5 抗MRSA薬の適正使用を目指した薬物血中濃度モニタリング(TDM)の取り組み

薬剤科	縄田英子、平池美香子、橋本未雷、三角紳博、西野 隆、富澤 達
-----	--------------------------------

VI-6 九州地区治験担当者の現状とネットワーク構築について

治験センター	林淳一郎 湊本康則、久保美紀子、市下由美、宮本美穂
--------	---------------------------

総評・閉会の辞

河野文夫（国立病院機構熊本医療センター副院長）

16：00～16：10

平成20年度 院内感染対策研修会のご案内

開催日：2009年1月21日（水）～23日（金）

開催場所：国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

日程	時間	講義内容	講師	
1月21日(水)	12:00～	受付開始		
	13:00～	オリエンテーション	管理課長 西田 政宏	
	13:10～	開会式 国立病院機構九州ブロック事務所	医療課長 吉住 秀之	
	13:20～	エビデンスに基づく院内感染対策－標準予防策、感染経路別対策の考え方	感染制御部部长 本田 順一	
	14:05～	MRSAと多剤耐性緑膿菌について	感染制御部教授 朝野 和典	
	15:00～	医療従事者感染防止対策	感染免疫診療部助教 宮川 寿一	
	15:45～	感染性腸炎・食中毒について（主に、ノロウイルス対策について）	小児科医長 岡田 賢司	
	16:30～	バンコマイシン薬剤耐性菌の現状と予防について	細菌第二部研究員 鈴木 里和	
	1月22日(木)	09:00～	国立病院機構ネットワークによる薬剤耐性菌サーベイランスについて	副薬剤科長 西野 隆
		09:40～	抗菌薬の適正使用	腫瘍・血液・感染症内科講師 高田 徹
10:50～		新型インフルエンザ対策	インフルエンザウィルス室長 小田切孝人	
12:00～		昼食		
13:00～		一国の事業から－	放射線管理専門官 清 哲郎	
13:50～		疥癬の院内感染対策	皮膚科医長 加口 敦士	
14:30～		院内感染起因菌の分子疫学	感染症制御研究部長 切替 照雄	
15:30～		手術部位感染対策	外科主任医長 針原 康	
16:30～		結核の院内感染対策－保健所の立場から－	健康福祉政策課 佐藤龍一郎	
1月23日(金)		09:00～	内視鏡の管理と消毒	消化器科医長 杉 和洋
	09:40～	血管カテーテル由来血流感染対策	内科医長 日高 道弘	
	10:20～	滅菌と消毒	薬剤部准教授 尾家 重治	
	11:15～	人工呼吸器関連肺炎対策	呼吸器科医長 柏原 光介	
	12:05～	昼食		
	13:10～	佐賀大学病院における院内感染対策と感染症科による診療援助	感染制御部部长 青木 洋介	
	14:10～	感染管理認定看護師の役割	感染管理認定看護師 家入 裕子	
	15:10～	全体質疑・応答	感染制御部部长 青木 洋介 臨床研究部長 芳賀 克夫	
	16:45～	閉講式 国立病院機構熊本医療センター	尾家重治、家入裕子、吉田真由美、日高 道弘、杉 和洋 院長 池井 聰	

本研修は国立病院機構本部九州ブロック事務所の主催によるものですが、席に若干の余裕がありますので国立病院機構外からの一般参加も受付します。希望される方は往復ハガキにて1月16日（金）までに下記宛お申し込み下さい。3日間受講されました方には受講証をお渡し致します。

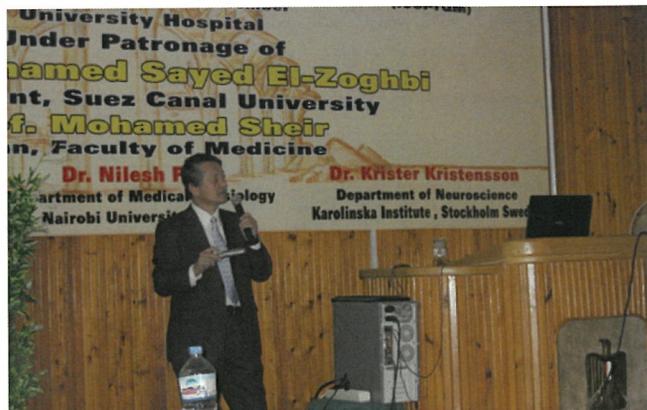
〈問い合わせ先〉国立病院機構熊本医療センター管理課（西田・牧野）
〒860-0008 熊本市二の丸1-5 TEL096-353-6501（内線390）

エジプト第3国研修報告

平成20年11月21日から28日までエジプト、イスマイリア市、スエズ運河大学医学部での第3国研修コース“感染症対策”に講師として派遣され帰国しました。本コースは、今年度が5年目（通算で13年目）の最終年度でしたが、当初の目標であるアフリカ途上国の感染症診断レベルの向上に著しく貢献してきました。また、これまでエジプトと日本の講師陣との密接な交流の下、参加したアフリカ諸国の研修生とのネットワークを形成し、エジプト・日本・参加国との強固な信頼関係を構築してきました。これらの成果を可能にしたのは、前コースリーダーで、前スエズ運河大学副学長のアハメド・ゴハリー博士という人を得たことが大きいと思われます。ゴハリー博士は、1992年に、当センターの“血液由来感染症コース”に参加し、我々との交流を続けていました。その後、当センターのこのコースへのアフリカ諸国からの参加希望者が多いことより、交通の便がよく、ゴハリー博士などの信頼する講師陣の構成が可能なエジプトで当センターと同じ内容の研修コースを実施する第3国研修計画が浮上しました。その後、曲折を経てエジプトJICA（国際協力事業団）の援助の下にゴハリー博士をコースリーダーとしたスエズ運河大学での実施が実現しました。このような経緯から当センターは、このコースの計画立案から参画し、第1回より毎年講師を派遣してきました。今回は、

(1) 成人T細胞白血病（ATL）、(2) 造血幹細胞移植についての2つのテーマで講演し、検査実習にも参加しました。また、前述しましたゴハリー博士は、本年よりファイユーム大学学長に栄転しましたので、今回はそちらへも訪問し大学を案内してもらいました。そこでも造血幹細胞移植について講演しました。帰国前には、カイロ市のエジプトJICA事務所を訪問し、本コースをさらにレベルアップした内容に改善し、よりすばらしい第3国研修コースとして継続するように、評価と提言を行いました。来年度より、エジプトでの第3国研修“感染症対策”は、新たなコースとしてファイユーム大学で開催される予定ですが、引き続き当センターから講師を派遣することになっています。

(副院長 河野 文夫)



肝疾患地域連携を深める会のお知らせ

(日本医師会生涯教育講座3単位認定)

内容：教育講演 座長：七城木村クリニック院長 木村 圭志 先生

1. 「インターフェロン導入における病棟看護師の果たす役割」

国立病院機構熊本医療センター別館3病棟師長 田中 雅美

2. 「C型慢性肝炎における新たな医療連携の展開」

国立病院機構熊本医療センター消化器科医長 杉 和洋

特別講演 座長：国立病院機構熊本医療センター消化器科医長（二の丸肝臓談話会代表）杉 和洋

「C型肝炎のインターフェロン治療の最前線—当院での治療の現況と発がん抑止効果の実態」

新日鐵八幡記念病院消化器科部長 梶原 英二 先生

日時：平成21年1月30日（金）19：00～21：00

場所：ホテルニューオータニ 2F おしどり

近年、肝疾患患者人口の増加に伴い地域医療連携の重要性が増してきています。平成20年4月より肝炎に対する公費助成制度が始まりました。当院では平成20年4月よりインターフェロン療法地域連携クリティカルパスを運用し、多くの医療施設との連携が深まり円滑な診療が行われつつあります。近隣の複数の医療従事者の方から実地医療に根ざした連携の勉強会のご要望があり、9月に「二の丸肝臓談話会」を発足しました。今回その一環として特別講演会を企画しました。

多数のご参加を歓迎します。

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター消化器科医長 杉 和洋 TEL：096-353-6501(代表) FAX：096-325-2519

専修医レポート



専修医
櫻井 聖大

平素より大変お世話になっております。専修医の櫻井と申します。2008年4月から当院救急部に所属させて頂いております。それまで2年間の初期研修時代は、大阪府吹田市の某病院で過ごしました。ちなみにその前の学生時代は熊本、その前は長崎、その前は福岡…と各地を転々としております。どうやら私の先祖のルーツを辿るとどうも海賊だったらしく、私の落ち着いたない放浪癖にはそれなりの理由があるようです。さて、私の活動の場は主に救急外来なのですが、救急車の数の多さにいまだに驚きを隠しきれず、世の中にはこんなにも病人や怪我人にあふれているのかと思う日々で

す。くじけそうになったり、心が折れそうになったりすることが多々ありますが、高橋毅部長をはじめとした救急部スタッフの方々や、各科の先生方、スタッフの方々に支えられながら、日々精進しております。

私が救急医療の現場に携わろうと決めた理由は、将来的に緩和医療に携わりたいと考えているからです。救急医療と緩和医療一、一見相反するもののように思えますが、相反するものだからこそ共通点があるし、交わるべきものだと考えています。救急医療の現場では、少なくとも何かしらの訴えを持つ患者様を相手にするわけで、それは疼痛であったり嘔気であったり、呼吸苦であったりします。そういった訴え・症状を治療により改善させることも、広い意味での緩和医療ではないでしょうか。また救急医療の現場では、どうしても死を避けられない局面がありますが、その際の患者様やそのご家族に対する態度・対応に緩和医療の考えというのは不可欠であると考えています。

まだまだ未熟者で、ヒヨコというよりむしろタマゴの状態な私ですが、日々努力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成21年度 専修医(後期臨床研修医)を募集します

応募資格：2009年3月31日までに臨床研修を終了する見込みの者または2年間の初期臨床研修終了者

研修期間：3年間（希望により5年間）

募集人員：内科系総合専修コース・外科系総合専修コース各若干名

給 与：当院規定による

宿 舎：レジデントハウス（25㎡）平成21年3月完成予定

選考方法：書類審査、面接等

願書締切：二次 平成21年1月31日（金）

応募される方は事前に下記までお問い合わせ下さい。

〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 事務部管理課給与係長 鶴見

TEL096-353-6501（代）内線621 FAX096-325-2519

詳細についてはホームページをご覧ください。

<http://www.hosp.go.jp/~knh>



ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

研修のご案内

第61回 特別講演(無料)

[日本医師会生涯教育講座 5 単位認定]

日時▶平成21年1月14日(水)19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

座長 熊本大学大学院医学薬学研究部婦人科学教授 片渕 秀隆

国立病院機構京都医療センター院長 藤井 信吾

「卒後医学教育」

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第89回 三木会(無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座 3 単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成21年1月15日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 『降圧薬により不適切ADH分泌症候群(SIADH)を来した2型糖尿病の1例』

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 西岡 裕子

2. 『インスリン注射のトラブル事例』

熊本県薬剤師会調剤薬局 永里 綾子

3. 『NASH(非アルコール性脂肪肝炎)とインスリン抵抗性』

国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器内科 佐藤有紀子

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参頂きますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表)内線705

第120回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座 3 単位認定]

日時▶平成21年1月19日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長 柏原 光介

2. 持ち込み症例の検討

3. 臨床でのアプローチ「新たな成人T細胞白血病の治療戦略」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科医長 武本 重毅

4. ミニレクチャー「特発性間質性肺炎の治療」

国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科 岡本 知久

日頃、ご疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参頂きますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第228回 初期治療講座(会員制)

[日本医師会生涯教育講座 5 単位認定]

日時▶平成21年1月24日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「脳梗塞の診断と治療」

座長 熊本県医師会理事 伊津野良治

1. 神経内科の立場から

国立病院機構熊本医療センター脳神経センター神経内科医長 田北 智裕

2. 脳神経外科の立場から

国立病院機構熊本医療センター脳神経センター脳神経外科医長 大塚 忠弘

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加頂けます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線263 096-353-3515(直通)

第93回 総合症例検討会(CPC)

[日本医師会生涯教育講座 5 単位認定]

日時▶平成21年1月28日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

テーマ:透析中の発熱・皮疹の出現

(70歳代 女性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター腎センター長 富田 正郎

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理室長 村山 寿彦

「慢性腎不全のため、透析導入を行ったが、発熱と皮疹が出現した。」

*臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー(解説)の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線263 096-353-3515(直通)

2009年 研修日程表 1月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1月	研修ホール	教育研修棟4階	その他
5日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
6日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
8日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
9日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
10日(土)	10:00~12:00 第1回 熊本EBMセミナー 「臨床研究計画の立て方」	13:00~17:00 熊本地区核医学技術懇話会	
13日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
14日(水)	19:00~21:00 第61回 特別講演 座長 熊本大学大学院医学薬学研究部婦人科学教授 片淵 秀隆 「卒後医学教育」 国立病院機構京都医療センター院長 藤井 信吾	[日本医師会生涯教育講座5単位認定]	
15日(木)	19:00~20:45 第89回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
16日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
18日(日)	8:30~18:00 第14回 国立病院機構熊本医療センター医学会		
19日(月)	19:00~20:30 第120回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
20日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
21日(水)	13:00~17:00 平成20年度 院内感染対策研修会 (国立病院機構)(第1日目)		
22日(木)	9:00~17:00 平成20年度 院内感染対策研修会 (国立病院機構)(第2日目) 18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
23日(金)	9:00~17:00 平成20年度 院内感染対策研修会 (国立病院機構)(第3日目)		8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
24日(土)	15:00~18:00 第228回 初期治療講座《会員制》 座長 熊本県医師会理事 伊津野良治 「脳梗塞の診断と治療」 1. 神経内科の立場から 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北 智裕 2. 脳神経外科の立場から 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 大塚 忠弘	[日本医師会生涯教育講座5単位認定]	
26日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
27日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(会) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
28日(水)	19:00~20:30 第93回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「透析中の発熱・皮疹の出現」		
29日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
30日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C

(会) 会議室 C 病院本館2階カンファレンス 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム 心リハ 心大血管リハビリテーションセンター
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)